

## 認知症ケアチーム・精神科リエゾンチームの活動について

### 認知症ケアチーム

当院では2023年4月より認知症ケアチームの活動を開始しました。認知機能の低下がある患者さんが安心して身体疾患の治療を受けられるよう、医師・看護師・薬剤師・精神保健福祉士からなる多職種チームが、週1回のカンファレンスとラウンドを通して病棟スタッフと協働し、質の高いケアの提供に努めています。現在は、せん妄の予防と発症時の適切なケア、身体拘束の最小化に重点的に取り組んでいます。



高齢の方や認知症のある方にとって、入院という環境の変化は大きなストレスとなり、不眠・不安・せん妄などの症状を引き起こすことがあります。そのため、私たちは入院前から一人ひとりの生活背景を丁寧に把握し、生活の連続性に配慮しながら、その方が持つ力を発揮できる療養環境を整えています。また、退院後の生活を見据えて地域と連携し、切れ目のない支援を通してその方らしい生活を支えていきます。

(文責：総合患者支援センター 福田 香織)

### 精神科リエゾンチーム

精神科リエゾンチームは、入院中に身体の治療を受けながら、こころの不調や不眠に悩む方をサポートするチームです。当院では2019年(令和元年)6月より活動を開始しました。

病気になると、身体のストレスが増えるだけでなく、不安になり気分が落ち込んだり、眠れなくなることがあります。「リエゾン」は、「つなぐ、連携する」という意味があり、こころと身体はつながっていると考え、チームは各診療科と連携しながら、専門的な知識と技術でこころの不調や不眠に対する治療・ケアをおこないます。精神科リエゾンチームは精神科医師、看護師、公認心理師、薬剤師、精神保健福祉士で構成されています。より良い精神衛生の状態での安全・安楽に治療・ケアを受けられるように、患者さんと医療スタッフの支援をしています。

チームの支援をご希望される場合には、まずは各診療科の医師にご相談ください。

(文責：総合患者支援センター 川谷 美智子)

# 総合診療・総合内科学講座 教授 就任のご挨拶

大分大学医学部

総合診療・総合内科学講座

しおた せいじ  
教授 塩田 星児



令和8年4月1日付で、総合診療・総合内科学講座の教授に就任いたしました。もともとは宮崎県出身で、1996年に大分医科大学（現大分大学医学部）に入学し、そこから大分での生活が30年近くになります。

2000年に大分大学医学部附属病院に総合診療部（現在の総合診療科）が設立され、私は2002年に第一期生として入局しました。現在は医学部を卒業後は2年間の初期臨床研修が必須となっておりますが、私が卒業した当時は6年生までに進む診療科を決定し、卒業後はそのまま医局に入局し、選択した診療科のみの診療を行っていくという形でした。そのような中で私はいろいろな診療科で研修を行いました。1年目は内科を一通り研修し、2年目に総合診療部研修、救急科研修、小児科研修を行いました。

総合診療専門医は、「特定の臓器や疾患を専門とするのではなく、幅広い視野で患者や家族を見守り、地域を支えるオールラウンドプレイヤー」と定義されています。風邪や感染症、高血圧や糖尿病などの生活習慣病といった、日常的に高頻度で見られる一般的な症状や疾患（コモンディーズ）のほか、どんな症状にも領域を問わず対応するという、扱う問題の広さおよび多様性が特徴です。また、必要な時は適切な科の専門医につなげるという役割を担います。患者さん自身はもちろん、ご家族や地域も含めて診る、治療だけでなく予防から終末期まで継続的に診る、といった点も特徴で、「病気そのものではなく患者さんを一人

のひととして診る」専門医です。

総合診療専門医の取得には診療所や総合病院での研修に加え、内科や小児科、救急科などの研修も含め計3年間の研修プログラムを修了する必要があります。総合診療医にとって特に重要なのは、コミュニケーション力です。患者さんやご家族、また他科や病診連携における“つなぎ役”を担う総合診療医には絶対不可欠なスキルです。

皆様には、普段から何でも相談できる「かかりつけ医」を持ってほしいと思います。患者さん本人やご家族をよく知らなければ最もよい治療計画は立てにくいですし、さらにACP（人生会議）は困難です。「生きていてよかったな」そのような日々を過ごせるよう、私たち医療従事者は皆様を支えていきたいです。



# 大分大学医学部附属病院

## 胎児超音波外来 開設のお知らせ

このたび、大分大学医学部附属病院では、妊娠中の赤ちゃんの状態をより詳しく確認するために、「胎児超音波外来」を開設いたしました。

赤ちゃんの体の異常（先天異常）は、約3～5%の赤ちゃんにみられるとされています。その中でも、心臓の病気（先天性心疾患）は約1%に発生するといわれており、生まれてすぐに治療が必要になる場合もあります。

そのため、妊娠中に赤ちゃんの様子を詳しく確認しておくことは、安心して出産を迎えるためにとても大切です。

当外来では、ご希望の方に対して、以下の時期に胎児超音波スクリーニング検査を行っています。

- 妊娠中期（19～21週頃）
- 妊娠後期（29～30週頃）

原則2回の検査を基本とし、必要に応じて追加の検査や経過観察も行います。

この検査では、赤ちゃんの発育や体のつくりを詳しく確認します。

特に妊娠中期は、心臓を含めた全身の形の異常を調べる重要な時期です。もし異常が見つかった場合でも、早い段階で分かることで、出産後の治療や準備をあらかじめ整えることができます。

また、妊娠後期にも再度確認することで、中期では分かりにくかった変化や新たな所見がないかをチェックします。

当外来では、胎児診療を専門とする医師が超音波検査を担当します。

さらに、他の医療機関で異常の可能性を指摘された場合のご相談や、より詳しい検査・継続的なフォローにも対応しています。

必要に応じて、新生児科医・小児循環器科医・小児外科医などと連携し、赤ちゃんの状態に合わせた医療体制を整えます。

出生後に治療が必要と考えられる場合には、事前にカンファレンスを行い、適切な分娩施設や分娩方法についてもサポートいたします。

妊婦さんご家族が安心して妊娠期間を過ごし、大切な赤ちゃんを迎えられるよう、スタッフ一同サポートしてまいります。

（文責：産科婦人科学講座 森田 泰介）



## 「医療人キャリア支援センター」へ名称変更のお知らせ

当院で医療に携わる「医療人」（医師、看護師、薬剤師、メディカルスタッフ）のキャリア継続、復帰、およびキャリアアップを支援するため、女性医療人キャリア支援センターが2014（平成26）年12月に設立されました。

センターでは、出産、育児などによるキャリアの中断や、その後の職場復帰が難しくなるといった課題をふまえて、交流会、研修医や医学生向けキャリア教育やキャリアパス相談会、復帰やキャリアアップのための環境整備プログラム、広報活動、専任職員による相談支援等のほか、男性の医療人が育児等と仕事を両立できるための会（男性医療人パパの会）の開催など、医療人全体の意識啓発を含めた支援策を行ってきました。

今後さらに次の世代を含め、すべての医療人がキャリアを継続し活躍できる多様性のある職場環境を実現するために、2026（令和8）年4月から「医療人キャリア支援センター」へ名称を変更しました。

センターの活動を通じて、すべての医療人が働きやすく、能力を発揮できるようになることで、病院全体の質の向上、ひいては、患者様、地域医療への貢献につなげることを目指します。



大分大学医学部附属病院 医療人キャリア支援センター  
E-mail carsupport@oita-u.ac.jp  
ホームページ <https://carsupport.med.oita-u.ac.jp/>

（文責：医療人キャリア支援センター長 松浦 恵子）

## 「患者本位の最良な医療へ ～みんなで創る医療安全～」

当院では、病院の理念である「患者本位の最良の医療」を目指し、皆さんに安心して検査や治療を受けていただけるよう、病院全体で安全な環境づくりに取り組んでいます。そのために私たちが大切にしているのは、患者さんと病院スタッフが手を取り合って共に創る医療安全です。診察や検査、お薬をお渡しする時などご本人であることを確かめるために、お名前をフルネーム

で名乗っていただき、手首のリストバンドを見せていただいています。これは、皆さんに正しい検査や治療を間違いなくお届けするための、一番身近で大切なルールです。

安心で安全な医療は、患者さんと医療者の双方向のやり取りで成り立ちます。検査や治療への不安など小さなことでも教えてください。「いつもと何か違う」、「説明がわかりにくい」といった皆さんの気づきや声が、重大なエラーを防ぐ手がかりになります。気になることがあれば、いつでも気軽に声がけください。共に安全を創るパートナーとして、ご理解とご協力をお願いいたします。

（文責：医療安全管理部）



このイラストはAIによって生成されました

# 「診療放射線技師 ってどんな仕事？」

病院1階の放射線部受付周辺で耳を澄ましてみてください。

「大きく息を吸って、止めてください」——そんな声が聞こえてくると思います。その声の主こそ、今回ご紹介する“診療放射線技師”です。

大分大学医学部附属病院 には36名の診療放射線技師が勤務しており、放射線部だけでなく、高度救命救急センター、手術室、病棟など、病院内のさまざまな場所で活躍しています。診療放射線技師は、医師や看護師など多くの医療スタッフと連携しながら、患者さんの診断や治療を支える医療専門職です。

## 画像診断を支える

診療放射線技師は、X線（レントゲン）検査、X線透視検査、CT検査、MRI検査、血管造影（IVR（Interventional Radiology（画像下治療））や心臓カテーテル検査等）、核医学検査などを担当し、体の内部を画像として映し出すことで、病気の早期発見や適切な治療につなげています。患者さん一人ひとりの状態に合わせて撮影方法を工夫し、不安を少しでも和らげられるよう、丁寧な説明と対応を心がけています。

## 放射線治療を支える

放射線治療は、がん治療の重要な方法のひとつです。診療放射線技師は、放射線治療専門医や看護師と協力しながら、高精度な放射線治療を支えています。病変に正確に放射線を照射し、正常な組織への影響をできる限り少なくするため、専用装置による位置確認や細かな調整を行っています。

## 放射線被ばく線量管理と線量低減に努める

放射線を利用する検査や治療では、「必要な情報を得ながら、放射線による被ばくをできる限り少なくすること」、このバランスが重要になります。装置の性能管理や撮影条件の調整を行い、適切な被ばく線量の管理に取り組むことも診療放射線技師の責務です。

診療放射線技師は、患者さんに安全な放射線診療を届ける専門職です。近年では、AIを用いた最新の画像処理技術を積極的に取り入れながら、安全性と検査精度の両立を目指しています。これからも放射線診療の現場から「患者さん本位の最良の医療」の提供に努めてまいります。



# あなたの声を お待ちしております

## 良い病院になるために

患者さんの声は、要約して載せておりますので  
ご了承ください。



声

立体駐車場屋上の一方通行が守られていなくて危ないです。

回答

立体駐車場内は、路面に矢印で進行方向を示しており、一方通行となっています。

逆走防止のため、各階エレベーター乗降口に注意喚起文書を貼付し、また、路面に右折禁止及び一方通行（直進）の矢印を表示して、ドライバーがより視認しやすいように環境を整備しました。



声

退院時に入院費の支払いができるようにしてほしい。

回答

診療の内容によっては退院日当日に計算が完了していない場合がございます。退院後の振込みによるお支払いもご案内しておりますので、何卒ご理解、ご協力のほどお願いいたします。



＼ 感謝の声 /

声

以前、通路の角で搬入業者と接触しかけた事があり、カーブミラーの設置を依頼したところ、設備を整えて頂いたおかげで安心して歩けるようになりました。  
大変感謝しています。

回答

カーブミラーの設置により、安心して通行いただけるようになったことを大変嬉しく思います。  
今後も患者さんが安全・快適に当院をご利用いただけるよう、環境整備に努めてまいります。



(文責：病院長)



## 大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411(代)  
大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

これまでの「かけはし」は、医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。

